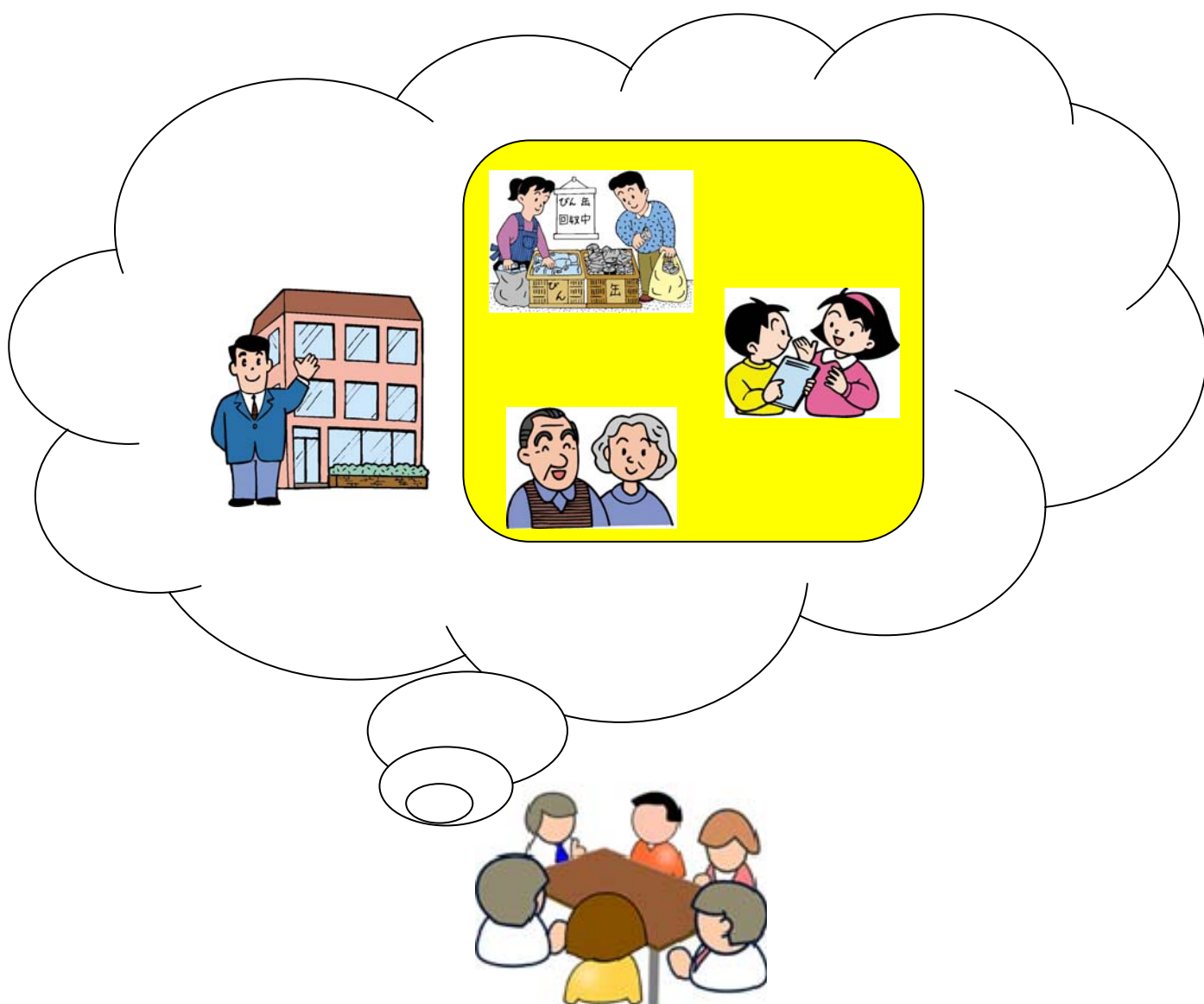


# 狛江市の取組みを市民の目線で チェックしました

— 平成 26 年度狛江市外部評価結果報告書 —



平成 27 年 5 月

狛 江 市

## 目 次

平成 26 年度にチェック（評価）した取組み（事業）について	1
分野Ⅰ ごみ対策	
事業 ① ごみ減量・リサイクル等の啓発（ごみ半減新聞等）	3
事業 ② 資源物集団回収事業奨励金	4
事業 ③ 生ごみ処理堆肥化容器等購入費補助金・集合住宅生ごみ処理協力負担金	5
分野Ⅱ 青少年の健全育成	
事業 ① 青少年育成委員会	7
事業 ② 青少年問題協議会	8
事業 ③ 青少年活動推進事業	9
事業 ④ 子ども議会体験事業	10
事業 ⑤ 青少年会議	11
分野Ⅲ 高齢者福祉	
事業 ① 敬老金	13
事業 ② 高齢者福祉週間行事	14
事業 ③ 入浴券	15
【参考】平成 26 年度の外部評価について	16

## 平成26年度にチェック（評価）した取組み（事業）について

◇平成26年度は、外部評価委員会において、下記の事業を市民の目線で事業の実施方法や成果などを評価しました。

分 野	事 業
I ごみ対策 	① ごみ減量・リサイクル等の啓発 (ごみ半減新聞等)
	② 資源物集団回収事業奨励金
	③ 生ごみ処理堆肥化容器等購入費補助金 集合住宅生ごみ処理協力負担金
II 青少年の健全育成 	① 青少年育成委員会
	② 青少年問題協議会
	③ 青少年活動推進事業
	④ 子ども議会体験事業
	⑤ 青少年会議
III 高齢者福祉 	① 敬老金
	② 高齢者福祉週間行事
	③ 入浴券

◎平成26年度の外部評価では、平成25年度の状況をもとに評価しました。  
(※青少年会議は、平成25年度未実施のため、平成24年度の状況で評価)

# I ごみ対策



- ① ごみ減量・リサイクル等の啓発（ごみ半減新聞等）
- ② 資源物集団回収事業奨励金
- ③ 生ごみ処理堆肥化容器等購入費補助金  
集合住宅生ごみ処理協力負担金

分野 I

ごみ対策



事業①

ごみ減量・リサイクル等の啓発（ごみ半減新聞等）

◆事業の内容

ごみ減量方法等を分かりやすく掲載した「ごみ半減新聞」や地区のごみ収集日・ごみの分別方法等を掲載した「ごみ・リサイクルカレンダー」を戸別配布しています。

◆事業の目的

ごみを出す一人ひとりのごみ減量意識が高まることにより、ごみの減量が推進され、ごみ・資源物処理の経費が抑制されます。

◆事業を取り巻く状況

ごみ指定収集袋による有料化やごみ減量・リサイクル等の啓発等により、ごみの減量が続けていますが、粗大ごみの収集量が増加傾向となっており、さらなる啓発が必要となっています。



平成 26 年度の外部評価委員会の主な提言

- ① ごみ半減新聞の周知について、イベント会場等だけでなく広く市民にアンケートを行い、アンケート方法も工夫して更なる周知の向上を図ってください。
- ② 掲載内容について、更に市民の関心を引くものとするために、市民の生の声を届ける企画を検討してください。



外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

- ① 生ごみ処理機購入者に対するアンケートの中に、ごみ半減新聞についての新たな設問を追加することで周知を図りました。
- ② 粕江市ビン・缶リサイクルセンターで古布の再利用を通じてごみ減量を進めている団体と調整を行い、平成 27 年度以降にごみ半減新聞の記事として取り上げます。

【参考】

◆ごみ収集量 (t)

23 年度	24 年度	25 年度
13,371	13,271	13,157

◆粗大ごみ収集量 (t)

23 年度	24 年度	25 年度
413	398	426

◇ この事業にかかった費用  
 平成 25 年度は、この事業に約 300 万円の財源を投じました。





◆事業の内容

集団回収団体として市に登録された市民団体（自治会、町会等の営利を目的としない団体）に対し、団体が回収業者へ引き渡した資源物（古紙、古布、金属、ビン類等）の数量に応じて、年4回奨励金を交付しています。

◆事業の目的

資源物の処理経費の削減を図るとともに、地域のつながりを強めます。

◆事業を取り巻く状況

制度の周知を図ることにより、集団回収団体は増えているものの、資源物回収量に占める集団回収量の割合はやや下がっています。



平成 26 年度の外部評価委員会の主な提言

- ① 地域団体の活動支援としての側面もあるので、関係部署との連携により、この点を積極的にPRして、活動団体を増やすようにしてください。
- ② 小学校等においてもPTA等を中心としても行っていることから、積極的な意識付けを図るために、子どもたちに対して、本事業の内容、結果を適切に伝えることを検討してください。



外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

- ① 町会や自治会については、地域活性課で行っている連絡会時に集団回収への参加の呼びかけのためのチラシを配布しました。今後、チラシの内容についても奨励金の魅力を伝える内容となるよう工夫します。
- ② 小学校及び保育園の皆さんが毎年狛江市ビン・缶リサイクルセンターに見学に来ています。こうした機会を活用し、PRを行っていきます。

【参考】

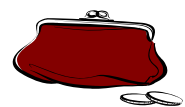
◆集団回収団体数 (団体)

23年度	24年度	25年度
109	109	114

◆資源物集団回収割合 (%)

23年度	24年度	25年度
23.6	23.4	23.2

◇ この事業にかかった費用  
平成 25 年度は、この事業に約 1,700 万円の財源を投じました。



分野 I

ごみ対策



### 事業③

## 生ごみ処理堆肥化容器等購入費補助金 集合住宅生ごみ処理協力負担金

#### ◆事業の内容

生ごみ処理機・生ごみ堆肥化容器（コンポスト）の購入費に対して補助金を交付するとともに、集合住宅に大型の生ごみ処理機を設置し、住民等がこれを活用しながら管理している生ごみ処理に対して協力金を負担しています。

#### ◆事業の目的

燃やせるごみの中で多くの割合を占めている生ごみの減量を図ると同時に、生ごみ処理機の活用を通して、ごみの分別等の意識向上を推進します。

#### ◆事業を取り巻く状況

集合住宅用生ごみ処理機の老朽化が課題となっています。



### 平成 26 年度の外部評価委員会の主な提言

- ① 長期的な使用を促す必要があるため、処理後の堆肥の使い道がない、悪臭が発生する等の継続利用を阻害する要因への対応を他市の事例を参考に具体的に検討してください。
- ② 効果の拡大に向けて、本制度を広く周知していくため、堆肥化容器等を使用した場合と使用しなかった場合について、家庭の経費の面から比較する等の市民目線に立った工夫を検討してください。



### 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

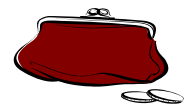
- ① 他市の事例を参考にして生ごみ処理について新たな方法を検討しており、利用効果を検証した上で周知していきます。
- ② これまで行政側の費用対効果についてはPRしてきましたが、市民目線からのメリットについては周知が不足していました。今後はごみ半減新聞等で具体的な例をあげながら周知していきます。

#### 【参考】

#### ◆生ごみ処理機等助成補助件数（台）

23 年度	24 年度	25 年度
23	24	28

◇ この事業にかかった費用  
平成 25 年度は、この事業に約 200 万円の財源を投じました。



## Ⅱ 青少年の健全育成



- ① 青少年育成委員会
- ② 青少年問題協議会
- ③ 青少年活動推進事業
- ④ 子ども議会体験事業
- ⑤ 青少年会議





事業①

青少年育成委員会

◆事業の内容

中学校区ごとに育成委員会が設置されており、それぞれ特徴のある事業を実施しています。また、各委員会の持ち回りで、市の委託事業である青少年健全育成事業を実施しています。

◆事業の目的

家庭・学校・地域関係機関と連携するとともに地域に応じた健全育成活動及び事業を通して、青少年の健全な育成を図ります。

◆事業を取り巻く状況

活動を担う新たな人材の育成と子どもたちにとって魅力ある事業を実施する必要があります。



平成 26 年度の外部評価委員会の主な提言

- ① 各育成委員会の活動実績に差が見られるため、各委員会の自主性は尊重しつつ、委員会全体の活動の底上げを図る手法を検討してください。
- ② 市の目指す方向性を明確にしたうえで、各委員会の活動がその方向性に沿ったものとなるよう助言してください。



外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

- ① 定期的な情報交換の場において、相互の事業についてさらに理解を深めるよう働きかけていくとともに、外部評価委員会の指摘事項を伝え、その機能を十分に果たすよう改善を図ります。
- ② 市では自主的な活動を支援しているため、活動の方向性を助言し、適切な支援を引き続き実施していきます。

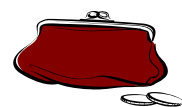
【参考】

◆青少年健全育成委託事業参加人数（人）

23 年度	24 年度	25 年度
60	70	63

◇ この事業にかかった費用

平成 25 年度は、この事業に約 56 万円の財源を投じました。





## 事業②

# 青少年問題協議会

### ◆事業の内容

青少年の健全育成に関わる団体から選ばれ、当協議会で一堂に会することで情報交換を行っています。また、健全育成のための施策を推進するに際し、具体的な実施計画等の調整等を行うための組織として青少年問題協議会小委員会が設置されており、青少年にとって健全な環境づくりに資するイベント、啓発活動等の事業を実施しています。

### ◆事業の目的

青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する調査・審議を行い、青少年にとってより良い地域の環境づくりを推進します。

### ◆事業を取り巻く状況

青少協だよりについては年2回発行しており、すくすくコンサートの入場者数についても約1,000人となり、例年並を確保することができている状況です。



## 平成26年度の外部評価委員会の主な提言

- ① 本来の所掌事項、特に横断的な機関であることを活かした調査・審議に注力してください。
- ② ネット上の不健全サイトの蔓延が深刻化している状況を踏まえ、「不健全サイトへの対応」をテーマとして、実態の把握や対応策の情報共有を図るとともに、青少年育成委員会による合同講座等の提案を検討してください。



## 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

- ① 青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき必要な重要事項を調査・審議するといった本来の目的に沿った運営を図ります。
- ② 「青少年健全育成を目的とした講座」にて、不健全サイトへの対応をテーマとして開催できないか、平成27年度に向け検討します。

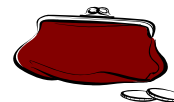
### 【参考】

#### ◆不健全図書追放ポスの回収実績（点）

23年度	24年度	25年度
3,133	2,471	3,761

#### ◇ この事業にかかった費用

平成25年度は、この事業に約147万円の財源を投じました。





◆事業の内容

新成人で構成される実行委員会形式による成人式の開催のほか、同じく実行委員会形式により中高生が主体的に企画・運営し、音楽活動、スポーツ活動、文化活動等を披露する「中高生フェスティバル」を開催しています。

◆事業の目的

青少年が自主的にイベント等を企画・運営することにより、青少年の居場所づくりを通じて健全育成を図ります。

◆事業を取り巻く状況

平成 25 年度は、成人式は出席者数を増やすことができましたが、中高生フェスティバルは他のイベントと日程が重なり入場者が減ってしまいました。



平成 26 年度の外部評価委員会の主な提言

- ① 地域のリーダーとなるような人材の育成と魅力的なイベントの開催のどちらに重点を置くかにより、求める効果も異なることから、事業の目的を改めて整理してください。



外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

- ① 以前から地域のリーダーとなる人材育成と魅力的なイベントの実施が課題となっており、それらの課題を解決するため、平成 26 年度より青少年委員の会議に事業委託を行い、一体的に推進する体制としました。

【参考】

◆成人式出席者 (人)

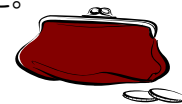
23 年度	24 年度	25 年度
383	358	371

◆中高生フェスティバル来場者 (人)

23 年度	24 年度	25 年度
300	355	260

◇ この事業にかかった費用

平成 25 年度は、この事業に約 73 万円の財源を投じました。





## 子ども議会体験事業

### ◆事業の内容

市内の小学生が一日議員となって、普段から考えていること、疑問に感じていることを市長、教育長等に議会形式で質問します。

### ◆事業の目的

子どもが議会及び行政の仕組みや役割を学ぶ機会を提供するとともに、子どもの意見や要望をまちづくりに反映させます。

### ◆事業を取り巻く状況

子ども議員となった少数の児童だけではなく、より多くの児童に対して効果が発揮できるよう実施方法を検討していく必要があります。



### 平成 26 年度の外部評価委員会の主な提言

- ① 市議会がインターネット中継を開始することに合わせて、本事業についても学校等で広く公開することを検討してください。
- ② 子ども議会で出された要望の中で実際に市政に反映された部分については、子どもたちに広く周知できる工夫を検討してください。



### 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

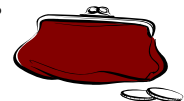
- ① 平成 27 年度開催の子ども議会は、議会開催中の様子を撮影・録画したDVDを小学校に配布することで、更に効果を創出できるよう検討します。
- ② 子ども議会で出された要望や意見については、それに関係する庁内部署にフィードバックを行っておりますが、今までの子ども議会で出た要望・意見が市政にどのように反映されたかについて広く周知する方法を平成 27 年度の実施後に向け様々な観点から検討します。

### 【参考】

子ども議会については、青少年会議と交互に開催しているため、平成 26 年度は実施していません。

### ◇ この事業にかかった費用

平成 25 年度は、この事業に約 7 万円の財源を投じました。





◆事業の内容

各中学校より選出された中学生の委員と、中学生が提案しやすいよう補助を務める高校生等のサポーターによって青少年会議を構成し、テーマに基づいてワークショップを実施しています。

◆事業の目的

青少年が自主的に会議の運営を担うことで、社会参加意識の向上を図るとともに、心身ともに健やかな青少年の成長を促進します。

◆事業を取り巻く状況

サポーターの誘導によって、中学生の意見を円滑にまとめることができましたが、前回の青少年会議と似通った意見の発表もありました。そのため、青少年が主体的に意見を発し、施策へと活かしていくまでの方法を検討していく必要があります。



平成 26 年度の外部評価委員会の主な提言

- ① 子ども議会体験事業と同様に、会議で出された意見が最終的にどのような形になったかということに参加した生徒に適切に報告してください。



外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

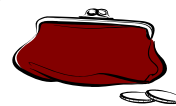
- ① テーマを議論するために必要な知識を習得するため、平成 26 年度の実施にあたり、第 1 回会議の前に事前研修会を行いました。次回の実施にあたっては、この事前研修会において、今までの青少年会議で出た意見が市政にどのように反映されたか、参加いただく子どもたちに報告します。

【参考】

青少年会議については、子ども議会と交互に開催しているため、平成 27 年度は実施する予定はありません。

◇ この事業にかかった費用

平成 24 年度は、この事業に約 24 万円の財源を投じました。



### Ⅲ 高齡者福祉



- ① 敬老金
- ② 高齡者福祉週間行事
- ③ 入浴券

分野Ⅲ

高齢者福祉



事業①

敬老金

◆事業の内容

毎年9月1日に、満77歳・満88歳・満99歳以上の方に対し、お祝い金を支給しています。

◆事業の目的

敬意を含めた敬老金等の支給により、高齢者の活力向上へと繋がります。

◆事業を取り巻く状況

高齢化社会の進展により、年々総支給額が増加しており、今後も市の負担が増えることが見込まれます。



平成26年度の外部評価委員会の主な提言

- ① 今後ますます高齢化社会が進む中で、現在の支給を続けると財政を圧迫します。また、他市の状況と比較しても、狛江市の支給状況は高い位置にあるので、敬老金を見直すように検討してください。
- ② 現金の代わりに、敬意を表し贈呈するものとして、次のようなものが考えられます。
  - ・ 狛江市観光協会の推奨商品等
  - ・ 市長からの表彰
  - ・ 自宅訪問を含めた写真撮影
  - ・ 希望に応じて選べるカタログギフト など



外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

- ① 今後の高齢化社会の進展を見据えると、市の財政への影響も大きいことから、満77歳、満88歳の方への支給額を減額するとともに、満99歳以上の方への現金支給を廃止します。
- ② 満99歳の方には、現金支給の代わりに、敬意を含めた記念品を贈呈することとします。

【参考】

◆敬老金支給対象者数 (人)

23年度	24年度	25年度
1,014	1,089	1,132

◇ この事業にかかった費用

平成25年度は、この事業に約928万円の財源を投じました。





◆事業の内容

例年9月の第1日曜日、午前と午後の2回に分け粕江市民ホールにて、75歳以上の方を対象に、歌手や芸人などによる演芸を実施する高齢者福祉大会を開催しています。

なお、大会内容については、老人クラブ、民生委員、社会福祉協議会、市職員からなる高齢者福祉大会検討会議で検討を行っています。

◆事業の目的

高齢者の憩いの場として演芸等を楽しんでいただき、長寿をお祝いするとともに、高齢者の生きがいづくりを推進します。

◆事業を取り巻く状況

平成25年度は、前年度と比較して参加者数を増やすことができました。また、高齢者が楽しいひとときを過ごすことが出来るだけでなく、外出の機会の提供及び以後の外出の機会のきっかけとなっています。



平成26年度の外部評価委員会の主な提言

- ① 高齢者福祉大会に行くことが難しい方に、行くことが難しい理由等の調査をして、今後魅力あるイベント内容とするようにしてください。
- ② 介護予防の観点から身体機能の維持改善が注目されていることを踏まえ、催しの休憩時間等の健康体操の実施を検討してください。



外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

- ① 毎年行っている無作為で選んだ2,500人に対する市民アンケートにおいて、高齢者福祉大会に行くことが難しい理由を伺いました。
- ② 提言を踏まえ、高齢者福祉大会検討会議に健康体操を提案していきます。

【参考】

◆参加者数 (人)

23年度	24年度	25年度
1,005	974	1,137

◇ この取組みにかかった費用  
平成25年度は、この事業に約163万円の財源を投じました。







## ◆事業の内容

自宅に入浴施設がない，又はやむを得ない事由により，自宅の入浴施設を使用できない状況にある65歳以上の高齢者及び心身障がい者に対し，月4枚を限度とし，入浴券を交付しています。

## ◆事業の目的

自宅の入浴施設を使用できない高齢者，心身障がい者に対し，在宅生活支援の一環として，健康保持と保健衛生の向上を図ります。

## ◆事業を取り巻く状況

入浴施設のない世帯は減少傾向にありますが，設備があっても故障した場合に経済的な理由により修理できず，使用できない人が微増傾向にあるため，対象者数は横ばい，もしくは微増していくと思われれます。



## 平成26年度の外部評価委員会の主な提言

- ① あいとぴあの老人福祉センターにある入浴施設を週に3日利用できる制度がある中で，本事業の意義を明確にしてください。
- ② 所得要件がありませんが，所得がありながら自宅の入浴施設を使用しない人が考えられないわけではありません。そのような方は対象外とすべきであることから，所得要件の規定を検討してください。



## 外部評価委員会の提言に対する主な市の対応

- ① 対象者が加齢により身体機能が低下している高齢者等に対し，身近な場所で入浴の機会を確保することで，負担を軽減しながら清潔を保持することを意義としています。
- ② 提言を踏まえ，所得制限を設けます。具体的には，課税世帯に対しての券の交付は取止めることとします。

## 【参考】

## ◆交付者数 (人)

23年度	24年度	25年度
107	95	92

## ◇ この事業にかかった費用

平成25年度は，この事業に約144万円の財源を投じました。

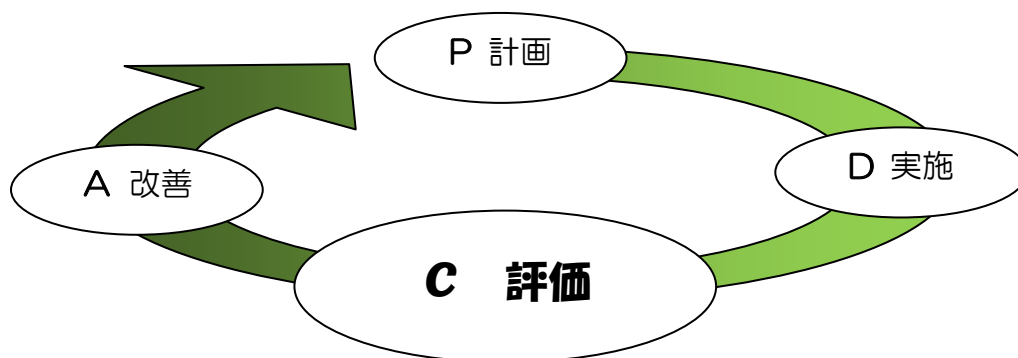


## 【参考】平成26年度の外部評価について

◇狛江市では、市民目線を重視した外部評価委員会を設置し、PDCA サイクルによる行政評価を行っています。

### 【参考】

行政評価は、計画（PLAN）→実施（DO）→評価（CHECK）→改善（ACTION）→計画（PLAN）→・・・と循環する、いわゆる「PDCAサイクル」によるマネジメントシステムにおいて、評価（CHECK）に位置付けられるものです。



◇平成26年度は、市民を委員長とする11人の外部評価委員会委員が市の事業を評価しました。

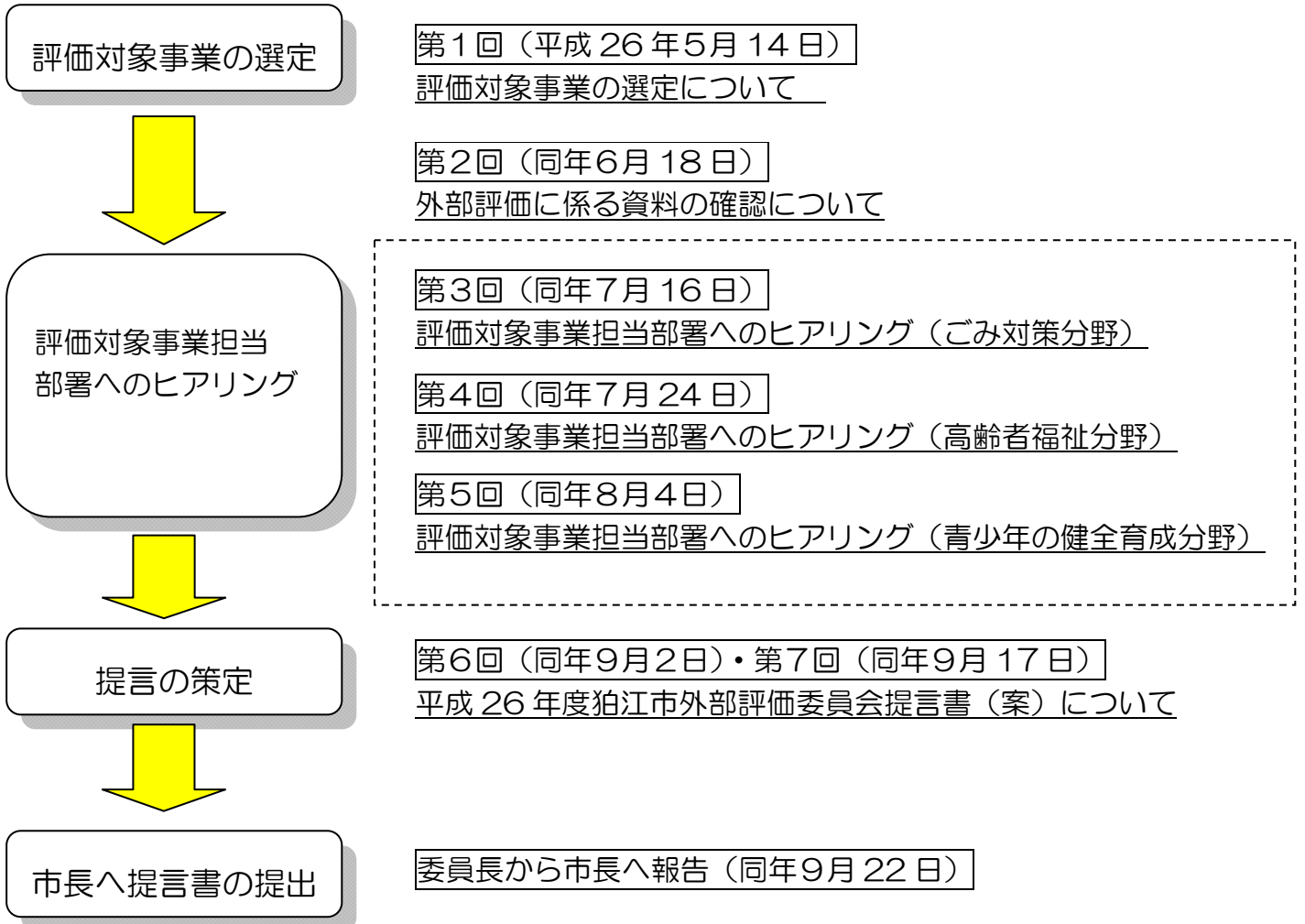
### 【参考】平成26年度 外部評価委員会委員構成

役職	選出区分	人数
委員長	市民	1人
副委員長	有識者	1人
委員	市民	6人
	有識者	2人
	市職員	1人
計		11人

※市民委員は、公募により選ばれた市民であり、7人のうち2人は無作為抽出により選ばれました。

◇平成 26 年5月から7回にわたり委員会を開催し、平成 26 年9月 22 日に市長へ提言書を提出しました。

### 《平成 26 年度外部評価委員会の流れ》



◇外部評価委員会では、提言に対する市の対応において、「検討します」等となっている事業については、平成 27 年度にその内容を再評価することも視野に入れ経過観察を行うこととしています。

登録番号（刊行物番号）

H27-8

狛江市の取組みを市民の目線で  
チェックしました

— 平成26年度狛江市外部評価結果報告書 —

平成27年5月発行

発行	狛江市
編集	企画財政部 政策室
	狛江市和泉本町一丁目1番5号
	電話 03(3430)1111
印刷	庁内印刷
頒布価格	無償